

ベルギーの棧橋 レジメ

五洋建設（株）	林 規夫
寄神建設（株）	横田 煌
奥村土木興業（株）	菊池 正昭

ブランケンベルへ棧橋の概要 (P1)

- ✓ブランケンベルへ市は、ベルギー北西部の北海に面する小都市である。
- ✓ブランケンベルへより南へ 15km の位置には、世界遺産の街「ブルージュ」がある。
- ✓ブランケンベルへ棧橋は、1894 年に供用開始された延長 350m の海上棧橋である。

フランダース地方海岸リゾート発展の歴史 (P2)

- ✓1830 年のベルギー王国独立に起因し、当時漁業、農業を中心とした沿岸の町は、19 世紀中頃より、新たに経済的繁栄を目的として観光業に注力していくことになった。
- ✓当初はベルギー中心地より沿岸に向かう鉄道は、いずれも沿岸小都市が終着駅であったが、1885 年に沿岸を繋ぐ路面電車（Kusttram）が建設され、沿岸地の観光発展に寄与した。
- ✓ベルギー王国レオポルド 2 世は、ベルギーの主要観光地として発展させるために、コンゴ植民地で得た利益をオーストエンデへ投資した。

ブランケンベルへ街の現状 (P3)

- ✓ブランケンベルへ海岸線に沿って、延長約 2.2km のエスプラナードがある。
- ✓ブランケンベルへ駅から海岸線に向けて、多くのホテルや商店が立ち並ぶ目抜き通り「ホーフ通り」、「ケルク通り」、「ウエスト通り」がある。
- ✓ブランケンベルへ棧橋は、目抜き通りを海岸線に抜けた位置より東側へ約 750m 離れた位置に存在する。

ブランケンベルへ発展の歴史

1) アクセスの向上 (P4)

- ✓ベルギー独立前のブランケンベルへは、現在の「ウエスト通り」と「ホーフ通り」の間に位置する小さな漁村であった。
- ✓1723 年に、ブルージュとブランケンベルへ間に道路が建設され、魚の輸出を増加させるだけでなく、休日にブランケンベルへ海岸を訪れる大きな転機となった。
- ✓1863 年に Heist-Brugge 鉄道が開通したことにより、ヨーロッパ各地からのアクセスが向上し、本格的な海岸リゾートへ発展していった。
- ✓1886 年には、オーストエンデとブランケンベルへ間を繋ぐ路面電車が開通した。

2) エスプラナードの形成 (P5)

- ✓1830 年のベルギー独立後、ブランケンベルへは漁業以外の収入源を模索し始めていた頃、フランダース地方では、英国上流社会の海岸リゾート文化が伝わり始めていた。
- ✓1840 年に、オーストエンデのような幅 1.25m、長さ 42m の木製の遊歩道を海岸沿いに建設したところ、瞬く間に裕福な上流階級者の興味を引くこととなった。
- ✓この遊歩道は、多くの投資家より関心を持たれ、小規模な遊歩道は、1860 年頃には赤いエレガントなタイルで舗装された幅 6m のエスプラナードとなり、東側へ延伸していった。

3) エンターテイメントの提供 (P6)

- ✓エスプラナードの成功により多くの投資家より注目され、必然的に洗練された人々を引き付けるための「エンターテイメント」を提供することとなった。

- ✓ エスプラナード沿いには、Grand Hotels Bains et des Familles 等の「ホテル」、ドーム型の屋根を備えた半円形のオーケストラホールや、舞踏会場を備えた「カジノ」が建設された。
- ✓ 1894年にはブランケンベルヘビーチの東端に、鑄鉄製の優雅な棧橋が建設された。

4) 街の変遷 (P7)

- ✓ 1920年代になると上流階級者はより多くの観光地を求め始め、ブランケンベルヘを訪れる人々は中産階級者が多くを占め始めた。
- ✓ この頃には、曲線の組み合わせが優雅な「アールヌーヴォー調」より、直線状で機能的、実用的な「アールデコ調」が好まれるようになった。
- ✓ 第2次世界大戦時に、ドイツ軍がヨーロッパ中に構築したアトランティックウォールにこのエリアが含まれていたため、エスプラナード沿いの建物は概ね破壊されており、現在はアールヌーヴォー調の面影を残す建物をあまり見ることができない。
- ✓ 1950年代になると車の発展とともに、観光はさらに巨大な産業に成長し、海岸沿いには多くの観光客が滞在できるリゾートマンションが多数建設された。

ブランケンベルヘ棧橋の変遷

1) 棧橋建設までの経緯 (P8)

- ✓ 英国海岸リゾートは構想から技術まで、パッケージとしての輸出製品であった。
- ✓ 1873年に英国のジョン・ヘンドリーにより建築申請書が提出、評議会は全会一致で採択。発起人らは「ブランケンベルヘ棧橋株式会社」を設立した。
- ✓ 棧橋の建設場所を街の中心にするのか、海水浴場を2分しない東端にするのか齟齬があり、4度の建設計画の見直しを経て、プロジェクトが承認されるまで15年の年月を要した。
- ✓ 1894年2月12日に着工、1894年7月15日の日曜日に開幕式が行われた。
- ✓ 先端に回転翼が設置され、杭内より水圧を掛けた杭打設方法が用いられた。
- ✓ 建設当初の棧橋は、アールヌーヴォー様式の鑄鉄製棧橋であった。

2) 第一世界大戦による破壊と復旧後の棧橋 (P9)

- ✓ 1914年10月30日、第一次世界大戦時占領されたドイツ軍により棧橋は放火され、消失した。
- ✓ 1928年10月6日ブランケンベルヘ棧橋を自治体を買収した。
- ✓ 棧橋消失後に時間を要したものの、鉄筋コンクリート部材を多用した、アールデコ調の棧橋として復旧された。
- ✓ 1933年7月9日鉄筋コンクリートで修復された棧橋の開幕式が行われた。

3) ドイツ軍による2度目の破壊を免れ修復を施す (P10)

- ✓ 1940年第二次世界大戦時、ドイツ軍から棧橋の爆破命令が出されるが、破壊は免れた。
- ✓ 1946年自治体は簡易な補修を施し、棧橋の運営が再開された。
- ✓ 1980年代はコンクリートの劣化が深刻な状況で運営が行われた。
- ✓ 1999～2003年に棧橋先端ステージ部を中心とした大規模な修復が行われた。

ブランケンベルヘ 街の現況と特徴

1) 市街地地図 (P11)

- ✓ 街の中心に「ブランケンベルヘ駅」、賑やかな中心通りである「ケルク通り」、ベルギー海岸線を走る路面電車、東に位置する「ブランケンベルヘ棧橋」と自然保護区、西側に位置する「マリーナ」とマリーナ航路を守る「2つの突堤」がある。

2) 鉄道始発駅と歴史ある中心通り (P12)

- ✓アクセスの良い鉄道始発駅ブランケンベルヘ駅
- ✓ベルギー海岸線を走る路面電車 (Kusttram)
- ✓ケルク通りは鉄道駅前からビーチ沿いのプロムナードに向けて伸びるブランケンベルヘの歴史ある中心通り

3) エスプラナードへ昇る 1899 年製の 2 つの石造りの階段 (P13)

- ✓ケルク通りの北詰めにあるビル 3 階の高さに相当するエスプラナードに昇る為の優雅な石造りの階段
- ✓バッケルス通りの北詰めにもケルク通りと同じく 1899 年に造られた豊かな装飾と彫刻で形造られた石造りの階段がある

4) 全長 2.2km にも及ぶ堤防上のエスプラナード (P14)

- ✓西はポートチャネルから東の J. ガタイネヘリングまで、全長 2.2km のビーチ沿いに設けられたエスプラナード
- ✓リゾートマンションが立ち並び、カジノ、レストラン、ショップ、娯楽施設が数多く出店

5) 東端に位置するブランケンベルヘ棧橋と街の西側に位置するマリーナ (P15)

- ✓古くからビーチリゾートのモニュメントとして人々に印象付けられたブランケンベルヘ棧橋
- ✓利用海浜と自然保全の海浜との境界 J. ガタイネヘリング通り
- ✓街の西側に位置するマリーナ

6) 2 つの突堤とマリーナへのアクセス航路 (P16)

- ✓街の最西端にはコンクリート製の Westerstaketsel と木製の Oosterstaketsel と呼ばれる 2 つの棧橋が隣接
- ✓両棧橋共に灯台に至るプロムナードを有し、2 つの突堤間はマリーナへのアクセス航路
- ✓潜堤とセットでマリーナ航路の埋没防止機能と消波機能を担っている

利用実態 (P17~20)

- ✓ブランケンベルヘ駅からビーチに向かう古くからの中心通りであるケルク通りは、多くの観光客で賑わっていた。
- ✓ケルク通りからビーチに向かう途中に存在する石造りの階段は、市街地側から見上げると、ビル 3 階の高さに相当するのように感じた。階段を上ると、広大な北海とブランケンベルヘのビーチの風景が印象的であった。
- ✓石造りの階段上の海沿いには、全長 2.2 km に及ぶ開放感があるエスプラナードがあり、そこから東に位置する棧橋に向かうと、レストランや売店などが立ち並んでいた。
- ✓ブランケンベルヘのエスプラナードは堤防上に設けられており、堤防上に建設されているホテルやリゾートマンションなどが隙間なく隣接し、背後地への防潮および防風効果が発揮されているようであった。
- ✓ブランケンベルヘ棧橋は、石造りの階段から東 750m に位置し、ビーチには、ドリンクバー、レストラン、各種遊具など、娯楽施設もあり、様々な年代の旅行者がビーチを訪れることに配慮されているように感じた。
- ✓ビーチには、等間隔に石積式の突堤が設けられており、航空写真をみると浸食防止の効果が確認できた。
- ✓棧橋東側では、この突堤で隔てられたエリア別に、実施できるウォータースポーツが定められており、訪れる人々の目的への配慮が感じられた。

栈橋構造 (P21～25)

- ✓ブランケンベルへの栈橋は、戦争時の破壊や、老朽化に対する度重なる補修を経て、1894年構築当初の面影は全くない印象であった。
- ✓現在では、第一次世界大戦後に補修されたコンクリートを基調としたアールデコ調の栈橋部と、2000年以降に補修された木材が多用された先端ステージ部が存在し、全く異なる雰囲気の栈橋を楽しむことが出来た。
- ✓1930年中頃に補修された栈橋部は、中産階級者が多く訪れた時代背景もあり、直線的で合理性、機功能性が重視されたアールデコ様式が基調とされ、高欄および基礎杭、上部工梁などに鉄筋コンクリート製の部材が多用されていた。
- ✓栈橋歩廊中央部には、350mに及ぶ栈橋延長上に防風壁が設置されており、壁の下部には連続したベンチが設置されているのが印象的であった。
- ✓栈橋上からブランケンベルへの海岸側を見ると、エスプラナード沿いのホテルとリゾートマンションが隙間なく建ち並ぶ様子が見られたのが印象的であった。
- ✓栈橋下部のコンクリート製の基礎杭には塩害の影響が数多く見受けられ、基礎杭の鉄筋が内部腐食することで、コンクリート表面までクラックが進行しており、錆汁がコンクリート杭の表面に露出している様子がうかがえた。
- ✓幾つかの基礎杭は、その高さ方向に断面形状の変化があり、過去にコンクリート巻き立て補修が行われたようであった。
- ✓塩害劣化の進行状態により、近年発生した状況ではないものと推測され、栈橋を管理するブランケンベルへ市では積極的に補修を行っていないように見受けられた。
- ✓栈橋部から300mの先端部には円形のパビリオンがあり、建物の1階ではレストランが営業されており、室内に飾られていた写真から、建設当時の鋳鉄製栈橋や、当時の旅行者の様子がわかった。
- ✓パビリオンでは、結婚式、セミナー、国際会議など多様なイベントが開催されているようであり、施設内の「Brighton Main Room」は高さ5mの吹抜構造となっており、パーティー会場として使用されている。
- ✓栈橋先端ステージ部は2000年頃に大型補修が行われており、パビリオンの講堂部(Auditorium)は海底地盤に打設されたコンクリート上に構築された直接基礎構造であり、杭により支持された展示場(Exhibition Area)や、周囲のステージ部と異なる基礎構造により成り立っている。
- ✓栈橋先端ステージ部は床板、手すり、梁などに親和性の高い木材が多用されている。
- ✓大梁はスパン中央部に反力を与え、梁断面力を低減させる補強鋼材を用いることにより支持杭間隔を広くとっているように見受けられた。
- ✓栈橋ステージより下の展示場および講堂部は、現在は閉鎖されているようであった。
- ✓栈橋部のコンクリートもそうであるが、栈橋が生み出す収益に対して、補修、補強工事にかかる費用が上回っておりブランケンベルへ自治体の財政に負担になっている可能性がある。
- ✓過去にブランケンベルへ自治体はモニュメントとして保護してもらえるように申請を提出したが、西フランダース州の遺産および景観委員会が栈橋にはモニュメントとしての価値を見出せず、長期認可が下りなかったことも影響していると推察された。
- ✓ブランケンベルへ市民、そして多くの観光客にとっても、1894年以来、ビーチ東橋に存在していたことへのセンチメンタルな感情と結びついており、2003年に建築遺産として認定されている。